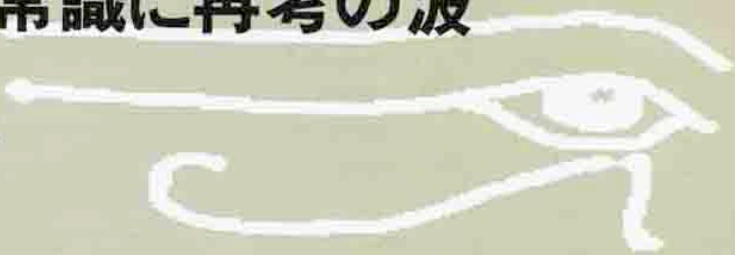


# MEDIA WATCHING

## 性的嫌がらせに 新しい判例続々 男性の常識に再考の波

メディア・ウォッチ編集長  
アン・サイモンソンさん



報道の中に現れる女性像を考え、報告する新聞、メディア・ウォッチが伝える世界の女性問題をお届けします。

### 女性運動と平和活動の本質は同じ

私はいろいろな意味で女性運動と平和活動には相互関係があると思います。「体制」はその意に沿った行動を要求し、それ以外の様々な試みを否定します。しかし私はこの野蛮な振る舞いに対してははっきり異を唱えることが、私の権利というだけでなく、義務でもあると考えています。

ヘンリー・ディビッド・ソーローとガンジーがおたがいに受けた影響について語った一節があるのですが、私はその中のソーローの言葉を思い出します。ソーローは南アフリカの獄中のガンジーに、市民の体制への不服従についてこう書いています。「どんなときでも自分が正しいと思うことを行うのは、私か唯一自分にその権利があると思える義務である」。彼は法に従うよりも自分の信ずるものに正直であるほうが高潔な行いと感じていたのだ。(湾岸戦争に疑問を投げかける編集スタッフ、エミィ・タンデル・ジョーンズの一文より)

### セクハラの新しき基準

サンフランシスコ裁判所はいわゆる法的に「普通の常識的な人」とやらを却下、セクシャル・ハラスメントを再定義しました。国税庁官吏のケリー・エリンソンは男性同僚が会話や手紙の中でしつこくセックスについて取り上げてきたと訴えていました。



Ann J. Simonson ●カリフォルニア大学サンタクルーズ校卒業後、モデルに、「スポーツイラストレイテッド」、「セブンティーン」の表紙や「グラマー」、「ボーグ」、「コスモポリタン」などのファッションページで活躍。テレビコマーシャルなども多数。仕事を続ける中でメディアの中で女性の存在に疑問を抱き、7年前から「メディア・ウォッチ」を組織してきた。現在は編集長。大学その他での講演やテレビ、ラジオ出演も多数。

Media Watch  
1803 Mission St. #7  
Santa Cruz, CA. 95060

ところが彼女の上司はそれに対処することを拒否、下級審も普通の理性的な人間ならそうした程度のことは嫌がらせとは取らないと裁定していました。しかし、今回彼女のケースを取り上げることを決定したブリーザー判事は「普通の常識的な人＝性的嫌がらせに鈍感という基準が男性の偏見で作られがちであり、女性の経験を社会的、組織的に無視する傾向にありがちな点を私たちは認識しなければ」と書いています。(インサイト1991年3月4日号より)

### 公共の場には公共性を考えた広告を

ニューヨークタイムズの記者キャサリン・ローレンスは公共性と相反する効果を持つ公共の場での広告について皮肉な論評を書いています。彼女は例えば実物大に拡大され、バスの待合所に貼られた、女性を馬鹿にするような広告について述べています。またニューヨークの地下鉄の壁にはUSA GIRLとダイヤルして「私たちと悦

楽の時をむさぼって」と誘う誘惑的なポーズの女性像が貼られています(アメリカの電話は番号と対応するアルファベットでかけることができ、電話を利用した商売では番号よりも覚えやすい単語で電話をかけるように告知するのが一般的。この場合は日本のテレクラにあたるエスコートサービスの広告)。ある広告は子供が遊ぶそばで、女の黒いレースのブラジャーをこぶして外そうとする男を描写。その広告の中で女は苦悶とも恍惚とも取れる表情を浮かべているのです。私たちの税金で賄われる公共の財産が女性に対する暴力の描写を許しているのはすべての女性に対する受け入れ難い侮辱といえます。(ニューヨークタイムズ1991年1月8日号より)

### ポルノ写真はセクハラを増長

ロイス・ロビンソンは全裸あるいは部分的に裸の女性の写真を貼った環境がセクシヤル・ハラスメントであるとの判決を勝ち取りました。このケースはポルノ写真がセクシヤル・ハラスメントを放置する雰囲気作りに加担することを知らしめ、写真そのものが嫌がらせであることを初めて公的に認めさせた結果ともいえます。(サンフランシスコクロニクル1991年1月23日号より)